

優しさは想像力

(前略) 232名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、創立80周年を迎える記念すべき年に、この富士見中学校の生徒となりました。昭和22年の開校以来あまたの卒業生に受け継がれてきた「文武両道」の精神で、中学校生活を充実させて下さい。この学年には学区内の4つの小学校だけでなく、全て合せると、23校の小学校出身の生徒が集まっています。たくさんのお出逢いがあるはずです。多くの仲間と切磋琢磨できることが富士見中学校の強みの1つなのだと改めて思います。

さて入学早々、皆さんに質問です。「優しさって何?」と聞かれたらどのように答えるのでしょうか。「思いやる気持ち」「困っているときに助けること」…、様々な答えがあると思います。高校野球の強豪校で、夏の甲子園で優勝経験もある仙台育英高校野球部の須江航 監督は「優しさは想像力」だとお考えになっています。野球部員に対しても、「相手が今、どのような状況にあり、何を考え、その結果として次に何を必要としているのかを想像する力こそが優しさである」と繰り返しお話されています。優しさというのは、相手の心の輪郭をなぞるような「想像力の深さ」そのものであるようです。

想像力には、2つの役割があるように、私は思います。1つは「これをしたら、相手が困るのではないかと踏みとどまる「ブレーキ」の役割、もう1つは「これをしたら、相手が助かるのではないかと手を差し伸べる「アクセル」の役割です。想像力は相手に対してだけでなく、自分自身に対しても働かせることができます。「これをしたら自分が困るのではないかとブレーキをかけたり、「これをしたら自分が助かる、成長につながる」とアクセルを踏んだりするということです。アクセルとブレーキを上手に使いこなせることは、これからの自分自身の成長にもつながっていきます。想像力をフルに働かせて、富士見中学校の多くの仲間とともに、成長していきましょう。

保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。大切なお子さんをお預かりし、その責任の重さに身の引き締まる思いです。中学校での3年間はお子さんが心身共に大きく成長する時期です。お子さんの健やかな成長のためには、保護者の皆様と私たち職員とが心をつなげて支え導いていくことが大切であると考えております。本校の教育活動に対しまして、御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今、ここにいる新入生の皆さんは、まだまだ、とても幼く見えます。この生徒たちが、3年後には心身ともに大きく成長し、大人の一步手前、立派な青年になります。私は今、その姿を想像しています。楽しみで仕方ありません。新入生のこれからの成長に思いをはせるとともに、御臨席賜りました御来賓の皆さま方に重ねて御礼申し上げ、令和8年度 熊谷市立富士見中学校 第80回入学式の式辞といたします。